

V. 特記事項

1. 大規模災害に備えるモバイルファーマシー（災害対策医薬品供給車両）の導入

薬剤師を輩出している大学として、横浜市薬剤師会との協力のもと、避難所の医薬品不足などの事態が発生した際に派遣できるモバイルファーマシー（被災地で自立的に医療用医薬品の調剤と供給を行うことができる薬局機能を有する車両）を提供し、横浜市と連携し、避難所などでの医薬品の調剤・供給・服薬指導・簡易検査などの業務を実施できる体制を整えている。令和元（2019）年度より 2 台のモバイルファーマシーの運用を始めた。令和 2（2020）年度は、横浜市健康福祉局からの依頼を受け、新型コロナウイルス PCR 検体採取所の支援のため、横浜市南区、鶴見区や戸塚区に計 30 回以上派遣した【資料特-1-1】。令和 3（2021）年度は、横浜市西区で開催された「第 42 回九都県市（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市）合同防災訓練」にモバイルファーマシーが参加し、大規模災害時での連携を確認した。【資料特-1-2】。

2. 地域連携に基づく新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた支援協力

本学は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に寄与するとともに、地域の負担軽減及び国民全体のワクチン接種の加速化に令和 3（2021）年度大きく貢献した（表-1）。以前から、横浜市薬剤師会と地域連携に関する協定を締結しており、この一環として学長に、横浜市大規模接種会場でのワクチン接種事業への協力依頼があり、薬剤師資格を有する教員がワクチン調製業務を実施した【資料特-2-1】【資料特-2-2】。また、戸塚区薬剤師会からも同時期に地域集団接種会場でのワクチン接種事業協力の依頼があり、調製業務を行った【資料特-2-3】。令和 3（2021）年 9 月～10 月には、本学の施設と人的資源を活用して新型コロナウイルスワクチン職域接種を実施した。その際、未接種の学生・教職員やその家族に加えて、近郊の中高校生とその家族なども対象にワクチン接種を実施した【資料特-2-4】。

表-1 令和 3（2021）年度に実施した新型コロナウイルスワクチン接種支援

	期 間	実施日数	延べ支援人数
横浜市大規模接種 (横浜ハンマーヘッド)	6 月 6 日～7 月 31 日	74 日	140 人
	8 月 16 日～12 月 5 日		
横浜市集団接種（戸塚区）	6 月 9 日～12 月 11 日	30 日	30 人
職域接種（横浜薬科大学）	9 月 10 日～9 月 24 日	18 日	559 人
	10 月 11 日～10 月 22 日		

エビデンス・資料集

- 【資料特-1-1】 新型コロナウイルス PCR 検体採取所の支援
- 【資料特-1-2】 第 42 回九都県市合同防災訓練
- 【資料特-2-1】 横浜市大規模集団接種会場の運営へのご協力について
- 【資料特-2-2】 横浜市大規模集団接種会場（第 2 期）の運営へのご協力について
- 【資料特-2-3】 一般向け新型コロナウイルスワクチン接種事業への派遣依頼について
- 【資料特-2-4】 新型コロナウイルスワクチン職域接種